

令和 7 年度 兵庫県立大学環境人間学部入学試験

学校推薦型選抜

帰国生特別選抜

総合型選抜

小論文(120 分)

問題冊子

全般的な注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
2. 試験開始後直ちに、表紙を入れて、問題冊子（5 枚）および解答冊子（5 枚）があることを確認すること。
3. 試験中に問題冊子および解答冊子のページ落丁・乱丁、印刷不鮮明、汚れなどに気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
4. 解答は、必ず、該当する解答用紙の所定欄に記入すること。
5. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

問題についての注意事項

1. 問題は次のとおり、必須問題 2 題からなっている。
必須問題 I、II （2 題）

空 白

I 次の英文を読み、問いに答えなさい。

On the flip side of the waste/recycling dilemma is the issue of where all of our material goods come from and how long we can continue to tap into those sources. We presently obtain most of our energy from nonrenewable oil and coal reserves. We *expend our stocks of old growth forests, groundwater, and *arable topsoil at unsustainable rates. And we send harmful emissions into the air and water at rates beyond the Earth's ability to *dissipate them, meaning that they will only collect and increase in concentration until we reverse our actions (or they do us in). Given that current modes of development are not sustainable, efforts such as the Leadership in Energy and Environmental Design (LEED) building sustainability rating system are underway to encourage responsible *stewardship of scarce resources. Notable progress toward sustainability has also been achieved in the forestry, mining and minerals, cement, and electrical utility industries, and the accelerating pace of investigation into new areas of sustainability promises to bear more fruit.

Complicating issues of how to make practices more sustainable are questions of how sustainable our behavior should be. What do we owe future generations? What value should we place on the welfare of others? Should we act, as *political philosopher John Rawls suggests, as if we lived under a *veil of ignorance regarding whether our time on the planet would come now or sometime in the future? Should our goal be to sustain the physical quantity or the value of resources? Should our sustainability standard apply to manufactured goods or just natural resources? Should future generations be able to live as comfortably as we do? The fate of future generations is in our hands, and we must decide the *toll we will take on their quality of life.

(Anderson, D.A., *Environmental Economics and Natural Resource Management*, Third Edition, Routledge, 2010.)

* expend 消費する、使い尽くす

* arable topsoil 耕作に適した土壌

* dissipate 放散する

* stewardship 管理

* political philosopher John Rawls ジョン・ロールズ、アメリカの哲学者

* veil of ignorance 無知のヴェール

* toll 損失、代償

【問 1】 本文の内容を 360 字以内の日本語で要約しなさい。

【問 2】 持続可能な社会の実現に向けての課題と、そのために私たちがすべきことについて、本文の内容を踏まえながら、あなた自身の意見を 400 字以内の日本語で書きなさい。

【問 1】、【問 2】の解答に共通する記述上の注意事項

- (1) かぎ括弧や句読点も字数に含む。
- (2) 数字・アルファベット・小数点は 1 マスに 2 文字まで記載してよい。
- (3) 「CO₂」、「%」や単位記号については 1 マスに記載してよい。

Ⅱ 次の文章を読み、問いに答えなさい。

近代の勘違いに気づくために贈与現象に注目しよう。贈与には矛盾がある。その確認から始める。贈物を受け取った側は贈物を返さなければならない。さもなくば、贈与の連関が途絶える。ところが贈物を必ず返してくれると知っているならば贈与と呼べない。等価の見返りを期待する贈与は単なる取引だ。したがって贈与ではない。それに御礼を返されれば、最初の贈与が色褪せる。贈物を返す行為がまさに贈与の意義を奪う。こうして贈与は概念自体に論理矛盾を内包する。

フランスの文化人類学者マルセル・モースはニュージーランドのマオリ族が信じるハウという霊に注目した。贈与物にハウが取り憑き、元の持ち主に返還しなければならないという負い目が、贈物を受け取った者に生まれる。この信仰のおかげで本来矛盾する現象が成立する。贈物をするが見返りは期待しないという言明と、贈物をもらったら必ず返礼せよという言明が矛盾と映るのは、両方とも贈与当事者が発すると誤解するからだ。当事者の外部に位置する第三項の導入でパラドクスが解消される。贈物を受け取ってくれという気前の良いメッセージは贈主のものであり、贈主に感謝し他の贈物で返礼せよという命令はハウが送る。つまり二つの異なる内容のメッセージが二つの異なる情報源からやってくる。①ハウが当事者と分離するおかげで贈与の連鎖が可能になる。

ハウはマオリ族の迷信だ。だが、この虚構媒介のおかげで共同体の絆^{きずな}が維持される。贈与当事者に生ずる心理現象と、贈与制度という社会現象との間に循環関係が成立する。下心のない贈物を受けたのならば、なぜ贈物を返す義務があるのか。返す義務があるなら、どうしてそれが贈与なのか。贈与し合う人間と贈物だけで贈与システムを構成するとアポリア^{註1}に陥る。だが、メタレベル^{註2}に仮現する虚構の導入によって、この二つの疑問が同時に氷解する。

贈与の本質は経済の外にある。贈与の収支決算は贈物の価値を差し引いても出ない。相手が何をどれだけ必要とするか、贈る側にどれだけ能力や余裕があるかで贈物が決まる。受け取ったモノ、してもらったことの対価として贈るのでない。贈物は相手の存在自体への気持ちを表す。相互作用を通して信頼と呼ばれる剰余価値が生まれ、人の絆が補強される。

○・ヘンリー『賢者の贈物』を思い出そう。夫ジムにクリスマス・プレゼントをしようとデラは一年間懸命に儉約したが、たいした額は貯まらなかった。クリスマスが明日に迫る。途方に暮れた彼女は膝まで届く自慢の髪を売り、プラチナ製の時計バンドを買う。ジムが大切にする金時計にうってつけだ。帰宅した夫は妻の変わり果てた姿を見て驚く。髪を売った経緯を知ったジムは古びたコートポケットから贈物を取り出す。包みを破ると中からベッコウの櫛^{くし}が現れる。宝石で飾られ、彼女の長い髪にうってつけだ。だが、その髪はもうない。「でもいいわ。髪はすぐまた伸びるから」。デラはそう答え、贈物のバンドを時計に取り付けるよう夫を促す。「デラ、クリスマスのプレゼントは二人ともしばらくお預けにしておこう。櫛を買うために、あの時計は売ってしまったんだ」。

クリスマス・プレゼントの価値と、それを得るために手放したモノの価値とを比較すれば、この交換で二人とも損失をこうむった。大切な時計あつてのバンド、美しい髪あつての櫛。

だが、贈与の収支決算はそのような単純計算ではない。贈物を通して信頼が高まり、愛の絆がより強くなる。

夫の時計をデラが盗んで売りさばき、その代金で櫛を買ったとしよう。それを知らないジムは時計のバンドが欲しいために妻の髪を無理矢理切って売る。髪を失ったデラに櫛はもう役立たない。ジムも時計を失い、プラチナ製のバンドだけが空しく光る。二人に残ったモノは『賢者の贈物』の設定と同じだ。だが、心理は決定的に違う。⑥一方では愛と信頼が深まり、他方では別れが迫る。

信頼がなければ即時の決済が要求される。あるいは返済を保証する契約を結ばねばならない。だが、信頼はそのような用心を無用にする。信頼があれば公平な決済が保証されると言うのではない。反対に、⑥収支の不均衡を積極的に受け入れられる状態を信頼と呼ぶのである。

本来の人間関係における収支勘定は各瞬間に決済されない。長い時間を経て収支が均衡する場合もあれば、親子のように当事者間だけで完済しない場合もある。養育にかかった労力と費用を子から返してもらおうと望む親はまずいない。育ててもらった負債を全部返済しようと子は考えないし、それが可能だとも思わない。そして借りは次世代に持ち越される。施しを受けた親に借りを返す代わりに自らの子に施す。こうして世代間の絆が生まれる。小さな輪の中で完結しないで決済が先に持ち越されるおかげで外に開かれた関係が作り出される。負債を返し合いながら人間は結びつけられる。いや、負債を返すという否定的表現は正確でない。単に相手が必要とするから与える関係、与えること自体が喜びになる関係、それは経済損失を心理的利益に変換する錬金術^{注3}だ。

(小坂井敏晶『格差という虚構』筑摩書房、2021、一部改変)

注1:「アポリア」とは、解決のつかない難問のこと。

注2:「メタレベル」とは、高次の、ある視点の外側から俯瞰的に捉える次元のこと。

注3:「錬金術」とは、ありふれた金属から金を生成する試み、広義にはありふれたものから価値のあるものに作り替える術のこと。

- 【問 1】下線①「ハウが当事者と分離するおかげで贈与の連鎖が可能になる」とはどういうことか、贈与の矛盾に言及した上で、本文中の言葉を用いながら 150 字以内で説明しなさい（かぎ括弧や句読点も字数に含む。数字・アルファベット・小数点は 1 マスに 2 字まで記入してもよい）。
- 【問 2】下線②「一方では愛と信頼が深まり、他方では別れが迫る」とはどういうことか、本文中の具体例を用いながら 240 字以内で説明しなさい（かぎ括弧や句読点も字数に含む。数字・アルファベット・小数点は 1 マスに 2 字まで記入してもよい）。
- 【問 3】下線③「収支の不均衡を積極的に受け入れられる状態を信頼と呼ぶのである」について、本文中の事例を用いながらその内容を説明した上で、あなたが見聞・経験したこの種の「信頼」関係について具体例を用いながら 400 字以内で述べなさい（かぎ括弧や句読点も字数に含む。数字・アルファベット・小数点は 1 マスに 2 字まで記入してもよい）。

空 白

